

午前11時00分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の時間となりましたので、3月の市長定例記者会見をただいまより始めさせていただきます。

本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたします。事業発表については、平成22年度当初予算案並びに21年度3月補正予算案の2つでございます。その発表項目に係る質疑終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したく思っております。

なお、終了は12時を予定いたしておりますので、皆様方のご協力、よろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、2月24日から始まります敦賀市議会開催前の記者会見であります。平成22年度当初予算の概要について説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

新年度の予算編成に当たりましては、地域経済の低迷などにより市税の増収が望めず、財源の確保が困難になる中、電源立地地域対策交付金の活用や各種目的基金からの繰り入れ等で対応するとともに、さらなるコスト縮減に努めたところであります。

予算配分に際しましては、昨年12月に国の認定を受けました中心市街地活性化基本計画に基づく事業の所要額を盛り込みますとともに、第5次総合計画の目標達成のためマニフェストに掲げました「安心安全」「人が集う」「元気」「暮らしやすい」の4つのテーマに重点的に配分をいたしましたものであります。

各テーマの主な事業につきましては、お手元に配付した資料のとおりでありますけれども、マニフェスト関連の新規事業として48事業を、その他の総合計画に基づく事業におきましても12の新規事業を計上いたしました。幅広い分野で新たな事業に取り組むこととしたわけでありす。

その結果、新年度の予算規模は、前年度当初予算と比較をいたしまして、一般会計はプラス6.0%で、2年続けて増加、全会計ではプラス1.0%で6年ぶりの増加となったものであります。

当初予算の主な事業といたしましては、防災・減災体制の充実のため、緊急時における情報伝達手段として、防災情報受信機を各世帯に配備することとし、所要額を計上いたしますとともに、築後40年以上が経過をいたしております西小学校校舎を改築するための工事費を計上いたしました。

観光対策につきましては、姉妹都市等との観光交流に係る出向宣伝経費や敦賀市公認キャラクターの着ぐるみ、グッズの制作等を支援するための補助金を、また今後の観光施策の充実を図るため、観光客の動向や宿泊施設等の現状調査を行いますとともに、港のにぎわい創出では、敦賀港発着のクルーズ客船の乗船料補助等を行うための経費を計上いたしました。

敦賀駅舎の改築につきましては、JR西日本が実施するバリアフリー化整備に対し、補助を行うとともに、仮駅舎建設工事費等を計上いたしました。

既存企業の元気支援では、市内中小企業者の販路拡大等事業展開を支援するため、各種商談会及び展示会の出展経費の助成費を計上いたしました。

農業の活性化につきましては、地産地消を推進し、学校給食の食材に地場産の米や野菜を積極的に取り入れるための経費や農産物の直売所の整備費を計上いたしました。

教育環境の整備につきましては、中学1、2年生の普通教室に冷暖房設備を整備するための工事費や、今後、小学校普通教室へ整備を拡大するための実施設計に要する経費を計上いたしました。

次に、平成21年度3月補正予算について申し上げます。

一般会計では、職員の早期退職に伴う退職手当、公共施設整備基金、鉄道駅舎整備基金、エネルギー拠点化推進計画推進基金への積立金、病院事業会計への運営費補助金等を計上いたしました。

また、道路維持修繕や学校の耐震工事、下水道管渠築造工事など、事業を前倒しして実施する経済対策事業に全会計合計で6億7,221万8,000円を計上いたしました。

以上が3月議会に提案をいたします予算の概要であります。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長から発表いたしました平成22年度当初予算案及び21年度3月補正予算案について質問を受けたく思います。

最初に幹事社からお願いいたします。

【記者】 市長さん、今回、前年度に引き続き積極的な予算なんですけれども、しかも大幅なんですけれども、その理由をもう少し具体的に。今、ほかの自治体では財政厳しい折なのに、どうしてそう積極的に組まれたのか。

【総務部長】 今回、15億円ほど増えておりますけれども、これは子ども手当の関係が13億円ほど出ております。この関係でかなり増えたということですし、また西小学校の改築がございますので、これで5億円ほど数字が上がっております。そういった関係で数字が増えているだけでございます。

【記者】 あと、済みません。

財政調整基金は今度どれくらいになるのでしょうか。残は。

【総務部長】 お手元のほうの資料2というのがあるとと思いますけれども、これの22ページを見ていただきたいと思います。

22ページの基金残高ということで、ここの財政調整基金、21年度末で23億6,200万円ということになっております。

【記者】 これは大体20億円で推移しているのでしょうか。

あと、もう1点、市長さん、7万都市で財政調整基金が20億円ぐらいじゃ、ちょっと心もとないような気もしないわけでもないんですけれども、どうでしょうか。

【市長】 多いにこしたことはないんですけれども、やはりお金というのは上手に活用することが大事でありますので、また余裕ができたなら財政調整基金には積んでいきたいなというように思っております。ただ、ほかの基金もまだ少しありますので、上手にそういうものを活用して、お金をうまく運用して、市民生活の向上、また福祉の向上、またまちづくりに役立てていきたいなと思っております。

【記者】 新年度の予算で、何事業あって、新しいものは何事業あるかというのを教えてください。

【総務部長】 全事業数については把握をいたしておりませんが、新規事業ということでございますけれども、今の資料ナンバー2のほうの24ページを開いていただきますと、21年度の当初予算で新規事業が37事業、22年度の当初予算で64事業の新規事業を組ませていただいているということでございます。

【記者】 増えているやつ、実は資料3とかちらっと見ると、子ども手当であるとか何か福祉系が結構増えているような感じがするんですけれども、そのあたりはどうですか。

【総務部長】 全体的に増えておりますので、別に福祉関係だけが増えているというわけではございません。農業関係、農林関係のものもたくさんございますし、数字的には小さい額になるかと思っておりますけれども、新規事業は各事業で増えております。

【記者】 あと、新規のやつの当初予算の中で、確認になっちゃうんですけれども、電源三法交付金の中で、今年度、全会計で見ると10億円ほど増えているのかな。ちょっと数字が間違っていたら申しわけないんですけれども、この促進対策交付金というのは、3・4号機が今年度建設されるから、このお金がつくという考え方でよろしいのでしょうか。

【総務部長】 資料ナンバー2の12ページのほうを見ていただきたいと思いますが、電源立地地域対策交付金の額につきましては、22年度当初予算に組まさせていただいたものが一般会計から特別会計、企業会計、合わせまして26億7,921万5,000円ということで、21年度と比較いたしまして10億6,800万円ほど増えております。

右側のほうの上のほうを見ていただきますと、原子力発電所の3・4号機に係ります立地対策交付金でございますが、この関係を利用させていただいておりますが、22年度の計上額が13億8,800万円ほど計上させていただいて、この分で増えているということでございます。

【記者】 それは、今年度から3・4号機が建設にかかるということを見越してつくよう

なものなんですか。別にそういうわけではないんですか。

【総務部長】 基本的には着工からという形なんですけど、この交付金は2年前倒しで使えるようになっておりますので、昨年も使わせていただいております。

【記者】 税収の増減とか支出の増減というのは、税収はちょっと減っているんですね。それにあわせて支出も減らしているような形になっているんですか。

【総務部長】 資料ナンバー2の10ページのほうを見ていただきますと、市税の関係で減少のものが出ております。経済関係が極めて悪いということで、個人市民税、法人市民税の減が主なものでございますし、固定資産税も若干減っているというような状況で、市税全体では2億8,000万円ほど減っているということでございます。

【広報広聴課長】 それでは、各社にお伺いしたいと思います。各社、質問のある方、挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 電源の促進対策交付金分なんですけれども、2年前倒しで使えるのであれば、今年度増えた理由というのはなんですか。

【総務部長】 増えた理由は、その電源三法交付金の3・4号機分を本格的に使えるようになったから、その部分を計画的に使わせていただくということで増えております。

【記者】 本格的に使えるようになったのは何で。来年度着工だからですか。

【総務部長】 着工からということですので、今年度着工からです。

【記者】 関連で聞きますけれども、延びた場合、どうなるんですか。

【総務部長】 今、現時点では延びるということは聞いておりませんので、それについては今から使えるというふうに考えております。

【記者】 仮の話をして本当に申しわけないんですけれども、要は3・4号で安全審査が延びているんですね、ずっと。10月着工、着工と言っていますけれども、正直、本当に着工できるかどうかというのはまだまだ予断を許さない状況だと思うんですけれども、あくまで仕組みとして聞きますが、延びても別にこの額については変更する必要はないという考えなんですか。

【総務部長】 この関係につきましては、国のほうへ申請して許可をもらうということでございますので、申請をして通ればそのままいけるというふうに考えております。

【記者】 じゃ、延びても減額補正とかそういうことをする必要はないという理解ですか。

【総務部長】 今、延びる前提で話をされていますが、延びるか延びないかというのはまだ現時点でわかりませんので、よろしくお願いしているわけでございます。

【記者】 新規事業がいろいろ含まれているということですが、先ほど市長いろいろ冒頭で読まれましたけれども、新年度予算でこれが目玉だということをちょっと1つでも2つでも3つでもいいんですが、これが今回の目玉だよということを教えていただけるとありがたいです。

【市長】 いつも記者会見始まりまして、以前からも目玉という言葉よく言うんですけれども、私は、バランスのとれたまちづくり、市政運営をやっているものですから、なかなか突出したものがあんまり今までもなかったような気がするんです。今回もそのようなことで、先ほど言いました4つの項目に従ってバランスよく予算を配分したものですから、例えば「安心安全」という分野ですと、例の情報伝達手段をするものも一つの目玉になりましょうし、また、「人が集う」部分では敦賀駅舎の改築、バリアフリー化というのも一つの目玉になるのではないかなというふうに思っております。

それと、子供たちの環境の中で、中学校1、2年生の子供たちの教室もやはり冷暖房をしっかりと勉強しやすい環境をつくっていくのも目玉かもしれません。いつも思うんですが、では、これがというのがないんですね、ともかくバランスのいいのが目玉だとひとつ御理解いただきたい、このように存じます。

【記者】 小学校の冷暖房の件ですが、これはほかの市町でも完備されていたりするものですか。

【教育長】 敦賀市独自の突出したものではないかというふうに考えます。

【記者】 市とか町だとそこまでは行ってないということですか。

【教育長】 そのように認識しております。

【記者】 来年度、今年度と言ったらいいのか、もんじゅがまず運転再開しますし、敦賀

1号機とかも40年運転とかするんですけれども、原子力のそういう広報とか安全とかというとおかしいですけれども、新たにちょっと増減とかしたものと違ってあったりするんですか。原子力関係、広報の部分でもいいし、安全に向けての何か対策とかわからないですけれども、そういうのに関して、敦賀市独自として予算をつけたものって何かあったりしますか。

【市民生活部長】 21年度では、原子力災害に関しての広報を全所帯に対してさせていただきました。

来年度ということになりますと、一般災害に関して前回広報してから、もう12年ほどたっておりますので、させていただくということにしておりますし、当然、テレビとかそういう媒体を使つての原子力災害に対しての安全PRはさせていただいております。

【記者】 原子力関係についての予算というのは、特別なという認識でよろしいでしょうか。

【市民生活部長】 それについてはございません。

【記者】 ちょっと関連してなんですけれども、原子力関係の収入が幾らかという計算はできますか。

【総務部長】 原子力関係と申されますと、そこに働いている方の市民税とか、いろんなものがあるかとも思いますので、その辺の計算はできません。うちのほうでいつもしていますのは、電力3社の固定資産税のほうでの話をさせていただいているところでございます。

【記者】 それでいうとどうなりますか。

【総務部長】 資料ナンバーの2のほうを見ていただきたいと思いますが、11ページでございます。

これは、電力3社での話で記載をさせていただいておりますが、22年度が37億4,000万円、21年度は38億4,000万円、約1億円の減ということになります。

【記者】 政権が変わりまして、初めて予算編成が今年されたと思うんですけれども、政権交代で予算編成で御苦労があったのかなかったのか、あるいはどんな感想をお持ちかというのを伺いたいですけれども。

【市長】 政権交代があってもなくても、予算編成はいつも苦労はしております。そういう意味で、特段、政権が変わったからという分野は少ないと思いますが、子ども手当等も今度は増えてくるということで、そういう事務的なものを、それと色々な経費もかかるということでありますので、それは全額国で負担をして欲しいという、これは全国市長会、知事会などでも要望は出ておりますが、そういう点ではないでしょうか。あと何かあれば総務部長から。

【総務部長】 確かに苦労はございました。と言いますのは、情報がかなり流れてこなかったというようなことで、例えば子ども手当にいたしましてもその財源関係をどうしようか等々の関係がございまして、情報を得るのにかなり苦労したというような状況でございます。

【記者】 去年は財政調整基金を取り崩していたと思うんですけれども、今回は取り崩さなかった理由というか、交付金が本交付されたからというふうな説明でしたけれども、取り崩さなくてもそれで賄えるという判断でということと、あと12月議会で不交付団体から交付団体という話もありましたけれども、これはどうなったんでしょう。

【総務部長】 確かに昨年は6億円の財政調整基金を取り崩して組ませていただきましたが、今回は取り崩さなくても組めております。と言いますのは、三法交付金のほうを見ていただきますと約10億円ほど増えていたと思いますけれども、こちらのほうを充てさせていただいた関係で取り崩さなくても予算は組めたということでございます。

交付団体、不交付団体の関係につきましては、これは本算定というのが7月に行われます。この算定を行わないと正式には出てきません。うちのほうの国の資財計画等を勘案して、今考えているのはまだ不交付のままかなということで、今回の予算にも普通交付税の収入は上げてございません。

【記者】 今の話の流れで、不交付団体のままでいける見通しのほうが強いということなんですか、今のところ。本算定は7月ということですから。

【総務部長】 現段階ではそういうふうを考えております。

【記者】 駅舎の関係は、今回拡大予算ということではあると思うんですけども、この駅舎の会計は、確認というか、繰り返しになるかもしれませんが、どのように進めていく、いつごろから本格的に着手したりとか、スケジュール的にはどうなってくるんでしょうか。

【副市長】 当初では、仮駅舎の予算を計上しておりますけれども、本格的な駅舎の改築ということになれば手順がありまして、まず仮駅舎をつくらなければ後の工事が進まないということで、仮駅舎つくって、今の本体の今現在のある位置を更地にして、それからさらにクレーンで中央通路をつくって、でき上がればクレーンを引いてその上に駅舎が立ち上がっていく、こういう手順ですので、若干タイム的なものはまだあるんですよ。

【記者】 建築はもう始まっているんですか。

【副市長】 今、設計に入っております。

【記者】 来年度予算では、実際に建て始めるところまでいけるんでしょうか。

【副市長】 いわゆる仮駅舎についてはそうでございます。

【記者】 補正予算なんですけど、細かい話で済みません。退職者の方の数なんですけれども、当初の見込みよりも8人も増えているというのは何か理由があったんでしょうか。

【総務部長】 別に理由はございません。大体、毎年この程度の途中の退職者が出ております。

【記者】 ということは、見込み数というのはその年齢の方の数ということで、例年、それにプラスして何名か退職されているということでしょうか。

【総務部長】 当初予算で持たせていただきます退職金につきましては、その年に定年を迎える方の人数分だけでございます。それで、途中でまたやめられる方が出ると、3月補正のほうで退職金をプラスして持たせていただいているところでございます。

【記者】 資料2の26ページに寄附金ってあるんですけども、去年1,000円で、今年8,300万円になって増えているんですけども、これ何の寄附金ですか。

【総務部長】 この寄附金につきましては、8,372万8,000円になっていると思いますけれども、昨年は科目設定だけでございましたが、今年度は西浦の1、2号線の整備事業費に関係をいたしまして7,430万円の寄附金を計上させていただいておりますのと、あと知的障害者の施設厨房等の改修を予算化させていただいておりますけれども、これまでに福祉関係で寄附をいただいた33件分をここに充てさせていただいて、908万2,000円と、あと3件ほど細かい寄附をいただいております、それぞれに充当をさせていただいております。

【記者】 大口の寄附金はどこからでしょうか。

【総務部長】 7,430万円につきましては、日本原子力発電株式会社でございます。

【広報広聴課長】 ほかに質問ございますでしょうか。

新年度当初予算案並びに3月補正予算につきましてはの発表でございますが、ほかに質問ありませんか。

ないようですので、発表事項につきましてはこれまでということで。

次に、次第の3番目、フリーの質疑応答に入りたいと思います。

これも最初、幹事社からお願いいたします。

【記者】 市長さんに伺いたいんですけども、今日、国でやったんですけども、例の新幹線なんですけれども、この間、沿線の5市町村で知事のところへ行かれましたよね。その中で国が早く方針を示して欲しいというのは、それはわかるんですけども、特に選挙の前にやって欲しいと要望が出たのは、あれはどんな意味があるんでしょうか。

【市長】 私もその会議に出ていました。時期的なことよりも、早期に認可して欲しいというような私どもの気持ちでして、特に敦賀市にとりましては、駅舎のこともございますので、できるだけ早くということでのお話の中。

それと、知事の後からのコメントの中でも出ていましたけれども、運動方針をどうやるか。やはり国家的なプロジェクト、確かに中央リニアという話もありますけれども、東海道新幹線の代替ルートであるということをやはりしっかり国、内閣府も含めてお願いをして、優位性といいますか、北陸新幹線の優位性はここにありということでの話がまとまったところでありまして、時期的には7月ごろということでもありますけれども、選挙等々

は特段意識せずに、とにかく早く認可が欲しいというようなことを決めていったところでありまして、そういう話をまた知事は国のほうでしていくのではないかと思います。

【記者】 教育長にちょっとお聞きしたいんですけども、気比中学校の先生が飲酒運転をしていて、いろいろ今対策をやられていると思うんですけども、今、現状、再発防止対策について、どういうふうな形で進めているかというのをちょっと教えてください。

【教育長】 この件につきましては、大変申しわけなく思っております。

県での発表がありましたその日に緊急の校長会を開きました。それから、各学校に対しましては、それぞれの学校でこれまでも一生懸命そういったことについての努力をしてきた中においてのそういう事案でございまして、さらなるそういう対策はどういうことができるかというようなことで、それぞれに考えていただくとともに、実は今日の午後から市内の小中学校、私どもも教育委員会としましても再発防止のために、あるいはまた綱紀粛正のための喚起を行うという。そういうような学校訪問も予定する中で、ともに防止するために、あるいはまた信頼を回復するために何ができるか、そういったことでの対応を考えているところでございます。

【記者】 いつごろまでにとかって何か目標とかあったりするんですか。

【教育長】 今の学校訪問等ですか。

【記者】 再発についての対策をまとめる時期の目標はいつごろになるのでしょうか。

【教育長】 極力早くということで、例えば学校回らせていただくところで、各学校のほうから決意表明をいただけるかもしれない。しかし、やはり早くということは今週あるいは来週、それぐらいでやはり一つの方向性を出していただきたいなど、そういうふうには思っております。

【広報広聴課長】 それでは、各社、質問ありましたら挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 もんじゅですけども、安全委員会の議論がちょっと遅れていて、多分、来週の月曜の定例会で結論出るんじゃないかという感じなんですけれども、とりあえず保安院の報告書だけでそれでもういいと思っているのか、それともやっぱり安全委員会としてもきっちりまとめてもらって、国としてこうですよというところまで示して欲しいのか。その事前協議願とのタイミングというか、そこら辺についてちょっと教えてください。

【市長】 そういうことがまとまってくればおおむね、例えば願いを受け付けることには差しさわりのないかなとは思いますが、それからいろいろ国なりでいろんな審査もありますので、それなり状況を見守るというのも一つの方法かなとは考えてもおります。

【記者】 審査というのは何ですか、耐震のことですか。

【市長】 いや、安全委員会の審査です。

【記者】 とすると、やっぱり安全委員会は待ちたいという、そういう考えですか。

【市長】 基本的には安全委員会が、保安院は実務的ないろんなチェックをする機関でありますし、安全委員会というのはそれを総括的に判断するところでありまして、そういう意味では、安全委員会がしっかり議論をしていくのは大事なかなとは思っています。

【記者】 今のもんじゅの関係なんですけれども、ここで改めて事前審査、事前協議願をいずれ出してくると思うんですけども、その際に、敦賀市として運転再開が認められるということの今重視していることを今後審議の中でどんなことを重視するのかと。そして、それによって認めるということにいくのかということをちょっと改めてここで伺えますか。

【市長】 もちろん、先ほど言いました安全委員会などで運転しても安全ですよということを得られるのが一番だというふうに思っておりますし、それと市民の皆さん方もやはりその部分を一番心配しておりますので、その御意見として、やはり市議会であるとか、また原子力発電懇談会の意見なども十分に踏まえていきたいなというように思っております。

とりわけ、これだけ世界中が期待する一つの機関は、もんじゅが正常で、また安定的に運転していくということは非常に期待もいたしておりますし、そういうものを持つ地域として、今、連携大学のコース初め、原子力との共存共栄を図っているまちづくりを進めておりますので、そういうものに協力をいただけたら、なお幸いです。

【記者】 敦賀原発1号機について伺いたいんですが、3月14日にもういよいよ40年

超になるんですけれども、長期運転するに当たって、市として支障とか判断するものはないと思われるんですよね。それについて、知事にはもう伝えたんですか。

【市長】 いや、まだ知事のほうから正式にどうですかという伺いはありませんので正式には伝えておりませんが、例えば懇談会の席であるとか、そういうところでは、大体今までここで発言させていただいたようなことは口頭で、また雑談というお話の中では伝えてあるつもりであります。知事とすれば、正式に国のほうと話をし、最終的には敦賀市どうしますかというような問い合わせがあるかもしれませんが、そうなれば今までどおりのスタンスでお答えをしていきたいと思っております。

【記者】 敦賀1号機の話ですが、懇談会とかの雑談では知事にお話しされたということなんですけれども、それは、知事としてはそれをもって河瀬市長の意思を。知事も当然、市長には聞きますからというふうな、当初、市長が前表明されたときに言っていたと思うんですけれども、それをそういう雑談の場をもって、まさかとらえているというわけじゃないですよね。

【市長】 ええ、恐らくそうだと思います。

全体的な今までの市議会の意見なり、敦賀市の雰囲気なり、市民の皆さん方のそういう様子などの雑談でありますから、恐らく知事は最終的には正式にどうしましょうねというようなことはあるのではなかろうかなと思いますけれども、全くそれがいつであるのかはまだ決まっております。

【記者】 ちなみに、そういう雑談レベルでも知事に最初に話しされたというのはいつごろですか。先月の話ですか。

【市長】 時期は忘れてしまいましたが、懇親会などもありますので、そういう席では1号機について、特に私いつも言っておりますけれども、やはり雇用問題等々を考えていくと、私は延長したほうがベストであるという考えを持っているということのお話はいたしました。これは要請でもありませんし、本当に雑談だと思っていただければ結構です。

【記者】 先ほどほかの記者さんからも質問がありました。その確認になるんですけれども、もんじゅの関係、原子力機構から事前協議願というのがしかるべきときにそのうち出てくると思うんですが、それをを出してくる前に、少なくとも、この前、保安院が言ってきた結論が原子力委員会でも了承された後が望ましいと、今そういうお考えだということですか。

【市長】 基本的には、保安院が出してきた時点である程度の、例えば申し入れを受けるタイミングではあるのかなというように思いますけれども、より慎重にやるとなれば安全委員会としても太鼓判を押してくるというのが大事ななとは思っています。

【記者】 早ければ22日という話もありますけれども、保安院が太鼓判を押したという意味では、この前12日に伝えにきた時点でそれでよかったわけじゃないですか、時期的には。この数日間、出さずにきているということは、やっぱりもうちょっと待ってもいいのかなというあたりで、今、考えてらっしゃるんですか。

【市長】 文面の表現とかで少し遅れたというように聞いておりますので、そのあたりはしっかりまとめられてくるというふうに思いますから、そういう状況になれば、また国のほうとして判断して、私どもに何かアクションあるかもしれません。私どもは、こちらから言える立場ではございませんので、その辺の成り行きを見守っていきたいなと思っております。

【記者】 関連して、もんじゅなんですけれども、耐震安全性については、保安院の報告書がまとまったほうがいいのか、安全委員会それが了承されたほうがいいのか、現段階でおおむね了承しているという、さらに下の作業部会の段階でもいいのか。事前協議を受け入れる段階というのは、どの段階というふうにお考えですか。

【市長】 おおむね安全であるという保安院なりの意見、それと耐震の分については、まだかなり専門家の分野になるというように思いますので、そのあたりは、例えば申し入れを受けた後でもじっくり見守っていけばいいことも可能でありますので、どの辺のタイミングがいいのかなというのは模索中であります。

【記者】 もんじゅの運転再開に当たって、雇用とか、経済波及効果とか、そのような点でどういうものを期待されていますか。

【市長】 もし仮に運転再開がされますと、いろんな研究がされる機関でありますので、多くの世界からのそういう高速増殖炉に関心のある国もたくさんあるように伺っておりますし、特にフランスなどはもんじゅに非常に期待しているということでもありますので、そういう多くの研修者の皆さん方がやはりもんじゅを訪れて来るのではなかろうかなというふうに思っております。もちろん、ああいうプラントが運転されますと、それなりに人が動きますから、そういう点での経済効果も出てくるのではなかろうかというふうに思いますし、動いて初めて研究成果が出、それがやはりまた連携大学初め、いろんなところでそういう研究が波及をしてきますので、そういう面での経済効果なりはかなり大きなものではあるのではなかろうかなというふうに推測はしております。

【記者】 敦賀原発1号機のほうに戻るんですけども、先ほど敦賀原発1号機の件で知事に正式に伝えたのかというのに対して、知事は国と話して、その後市とどうするか話があるように思うというお話でしたけれども、知事は国と何を話した後に、というのは、その条件として市から何か提示されているんですか。

【市長】 全くそれは私にはわかりかねますし、私どもいつも言いますが、バーター的なことはいつもしているつもりはございませんので、純粹に敦賀の市民の思いなり、また市議会のいろんな判断のことについて、先ほど言いました知事との雑談の中でお話ししたわけでありまして、決して国に対して、知事を通して条件が云々ということは全くございません。知事はどういう話をされているかということは、私どものはかりかねるところであります。

【記者】 8月のもんじゅの再開工程を提示してきたときに、文部科学省から副大臣が来ましたが、事前協議のタイミングで、改めて文部科学省を呼びたいという考えありますか。

【市長】 呼びたいとは思いませんけれども、恐らくもんじゅが再開をしようとなると、それなりの人がやはり出てこられてお話をされるのではなかろうかなというように推測はいたしております。

【記者】 どのクラスですかね。政治家なのか、担当部局なのか、それはどうとらえていますか。民主党は政治主導って言っていますけれども。

【市長】 それは、民主党さんの政治主導という形になる。今までも大体、当時ですと科学技術庁の長官でありますとか、そういう皆さん方がいろいろ出てこられていたような記憶がございますので、今でいうと文部科学大臣がその立場ではなかろうかなと思いますけれども、それなりの人が出てこられるのではなかろうかと思えます。私のほうからどなたに来てくれとは申し上げることはないと思えますけれども。

【記者】 科学技術庁長官にしても文部科学大臣にしても、いわゆる政治家ですよ。だから、例えば文部科学省の局長とかそういう人じゃなくて、やっぱり想定しているのは政治家がしっかり説明をすると、そういうニュアンスですかね、今の発言は。

【市長】 過去の例を見ますと、例えばもんじゅの事故の起こったときの話などは、私どもも総理に直接お会いしまして。総理もたしかお見えになったような。村山さんのときでしたので官邸でお会いしたことございますし、その後の科学技術庁の長官なども必ずもんじゅの後、来ておりましたので、恐らくそういう形になるのではなかろうかなと、想像はしております。

【広報広聴課長】 ほかに質問の方ございますでしょうか。

ないようですので、3月の市長定例記者会見はこれにて終わりにさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午前11時46分 終了